万人の避難は一斉に行われ、市内は直ぐに無人になったそうだ。

収束したのは翌日でしたが、安全確認のため 10 日後に帰宅を許可したようです。

事故を起した原子炉は廃炉にし、他の原子炉は州裁判所の稼動再開可の判決を得て再開しましたが、市民との協定は厳しく、市側は緊急事態管理庁を設置、事故時に備え、緊急避難場所、大量運送のバスの運用方法、集合場所、避難の受け入り施設等々、事故に備えた厳しいマニュアルを作成、裁判所の立ち会いで住民と市との間で協定が出来た。

この協定の締結が、原子炉稼動再開可の条件でした。

事故を起した原子炉が完全に廃炉になり、安全終息宣言がでたのは 14 年後でした。

富岡に帰れる日を指折り数えて待っているのに答えられなくて本当にご免なさい。

ステップ 2 が収束すれば、少しは明るいニュースをお届けできると思います。

少し明るいニュースです。10 月 10 日、体育の日、JR 常磐線は久ノ浜駅まででしたが、　やっと広野駅まで開通した。

広野町は 9 月 30 日、緊急時避難準備区域が解除されたが、未だ除染作業は始まっておらず、町民の多くは避難地から帰っていない。

残る不通区間は広野～亘理の約 102km、　木戸～小高間は警戒区域で立ち入り禁止、駒ヶ嶺～亘理間は部分的に駅舎、線路が流失、路線変更派と現状復活派の対立で全てが白紙状態、常磐線全線再開にはまだまだ時間が掛かりそうだ。

高速道路も、富岡 IC ～相馬 IC 間は本年度中の開通予定であったが、工事中断、再開の目途はたたない。相馬 IC ～山元 IC の工事も中断したままになっている。

避難解除になっても、その時点から除染作業が始まるとしたら、どの位の作業量、時間を必要とするのか、帰れるような住環境が整うのはいつなのか、なんとも答えられません。

◎　Q：今更後悔してもどうしょうもありませんが、どうしてあれほど原発建設誘致に積極的だったんでしょうか？

A：原発が密集しているのは、双葉郡ばかりではなく、日本で最高の原発銀座は、福井県の若狭湾沿岸一帯、敦賀市内に関西電力の原発２基、日本原子力研究開発機構の「もんじゅ」と「ふげん」（解体中）。若狭湾沿岸市・町、関西電力の美浜原発 3 基、大飯原発 4 基、高浜原発 4 基が並び、双葉郡の 10 基よりも多い。

両地方の共通点は、めぼしい産業がない、農業が主体としても稲作以外に特産物なし、出稼ぎの常習化、若者の流出、出口のない閉塞感。

そこへ降って湧いたような、美味しい話、飛付くのは当然でしょうか。

電源三法交付金：電源開発促進税法などの「電源三法」に基づき、計画段階を含めて、発電所の立地自治体や周辺に国が支払う交付金。